



えん 園 だ よ り 8 月 号

Y M C A 保育園ねがい

2025年8月1日発行



「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」マタイによる福音書 18章20節



「一か月はなんて長いだろう！」子どもの時、なかなか替わらないカレンダーを見て、思いました。でも、夏やすみは毎年あつという間で、最後に宿題が待っていました。

暑さは毎年ますます危険になっています。でも、自然に触れて汗をかきながら夏の虫を探したり、緑や水、風、光、雨、雷にふれたりして季節を感じられたら良いなと思います。安全に気を付け、元気に過ごせますよう祈ります。

「お座り」「はいはい」から、お誕生日が近づくと「つかまり立ち」「一歩」歩み始める探索活動、ひかり組の0歳児。「自分で！」と「これは？」の質問攻めのかぜ組1歳児。「イヤイヤ・ダメダメ」の自我が芽生えるそら組2歳児。「(自分でできるのに)やって！抱っこ」の甘え上手なほし組3歳児。一人より楽しいお友だちが楽しくなって二乗、三乗のパワフルつき組4歳児(意見の違いや気持ちの表現で苦しくなる事が多発です。)そして、キャンプを経験して好奇心とアイデアがさく裂しているにじ組5歳児。

このところ全員が、爆発的に豊かになったのがコミュニケーション能力です。子どもも大人も、園の生活に慣れてきたからでしょうか。表現、発信と言葉にならない感性は年齢にかかわらず豊かに花開き続ける一人ひとりの毎日です。(大人も)特に子どもの感受性と表現力に驚かされます。「見ていたんだね!」「気づいていたのね!」毎日濃密な時間を過ごしている担当の保育者ですら、気づかなかった自然の変化や大人の様子を知っています。

これが、一人ではなく、集団で過ごす醍醐味だと思います。見て、聞いて感じる事は言葉より心に響くのでしょう。ところが、大人は経験を積んだ分、新しい事に会って新鮮な驚きより、過去の苦い経験を避けたいものなのです。

心が動いた、感じた事を言葉する経験に出会うことがコミュニケーションを経験する一番良い順番ではないかと思うのです。いろいろな場面での気持ちを一言で伝える言葉が「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」で、相手に気持ちが伝わる経験ができれば、なんと嬉しい事でしょう。伝えたいメッセージがあり、応えてくれる相手がいる事。いつも、賛成してくれるわけではないけれど、そんな気持ちのやり取りが少しずつできる事を願っています。(大人同士もです!)

そして、同じ思いの人が「二人または三人」集り、心を込めた祈りは天に届くと信じています。(園長 今井世都)

